



訪問取材に이었습니다



非認知能力で子どもの可能性を広げるフォーラム&セミナー（太子町 5/18）

フォーラム「太子町のめざすこと 太子町のビジョンと取組みを共有」

令和7年5月18日（日）に太子町にて開かれました、フォーラム&セミナーを訪問取材しました。

前半に実施されたフォーラムでは、IPU 環太平洋大学特命教授の中山芳一さんをファシリテーターとし、田中町長、中道教育長、BYBS Coaching 代表のボーク重子さん4人によるパネルディスカッションが行われました。既に太子町内の学校園にて実施されている非認知能力についての取組みを、町全体で進めることで、実現したい町のビジョンが参加者の皆さんと共有されました。

「どの道を進もうが、子どもたちが生きていける力をつける」という田中町長の言葉が印象的でした。



分科会1 「体験して実感！今日から褒め方・叱り方に自信が持てる」 in 万葉ホール

第1分科会ではBYBS Coaching 代表のボーク重子さんによる非認知能力の入門編となるお話でした。



非認知能力はよく「見えない力」と言われます。見えないからこそ、やって見せる人（ロールモデル）が大切。子どもたちに言ってやらせていた子育てから、失敗してもいいので親が挑んでいる姿を「見せる子育て」へ転換していきましょと、これから実践していく参加者の皆さんにお話しされていました。

感想には、「失敗する姿どんどん見せていきます」「子育てを明るく楽しくとらえられる機会となりました」という声がありました。子どもたちにこれからどのように声かけをしていくか、楽しく考えることができました。

分科会2 「子どもの学びと成長を支えるためにできること」 in 太子の森

第2分科会では、奈良県にある三宅町立三宅幼稚園の園長である徳留宏紀さんを講師として、非認知能力を育むために取り組まれてきた、幼稚園での実践事例についての紹介がありました。

また、講演では、子どもたちは、たくさんの大人に支えてもらっているということを感じることや、大人の多様な価値観に触れる中で、子どもたち自身も多様な考え方ができるようになり、それが行動としても表れてくるというお話がありました。

その後のグループワークでは、参加者が、地域にいる大人として子どもたちにどのように関わることができるのかについて交流しました。

参加者の感想には「地域の大人のひとりとして、子どもへの関わり方に生かしていけたらと思います」「非認知能力という言葉について、少しずつ理解する事が出来てきたように思います」といった声があり、子どもたちを地域全体で育てていくために、何ができるかについて考える充実した時間となりました。



地域教育振興課のInstagram でも情報を発信しています→

